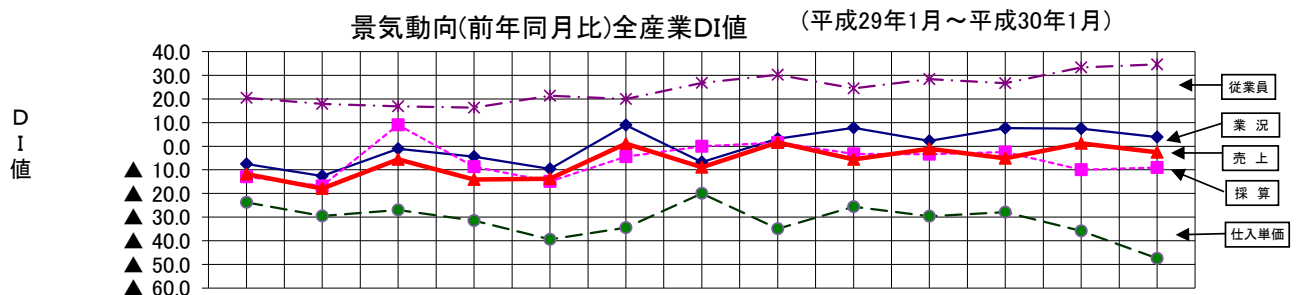


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 1月分

【1月の概要】 景況感はやや改善の動き、先行きは依然として慎重な見通し

12月に比べると、売上DIはプラス幅が減少し、業況DIはプラスからマイナスに転じている。仕入単価DIもマイナス幅が増加したが、採算DIは横ばいの動き。従業員DIはプラス幅がさらに増加した。製造業では原材料価格の上昇、サービス業でも人材確保が難しいとの声が聞かれ、仕入コスト増と人手不足の進行が続いている。

先行きについては、12月に比べ、売上DIはマイナスからプラスに転じ、採算DI、業況DIともマイナス幅が減少しており、景況は、やや改善の見通しを示した。一方、仕入単価DIのマイナス幅と従業員DIのプラス幅が増加しており、仕入コスト増と人手不足がさらに深刻になる見込みとなっている。



	平成29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成30年 1月
売上	▲ 7.5	▲ 12.6	▲ 1.1	▲ 4.4	▲ 9.6	8.9	▲ 6.7	3.2	7.8	2.3	7.6	7.4	3.9
採算	▲ 12.9	▲ 16.8	9.0	▲ 8.7	▲ 14.9	▲ 4.4	0.0	1.6	▲ 3.3	▲ 3.4	▲ 2.5	▲ 9.9	▲ 9.0
業況	▲ 11.8	▲ 17.9	▲ 5.6	▲ 14.1	▲ 13.8	1.1	▲ 8.9	1.6	▲ 5.6	▲ 1.1	▲ 5.1	1.2	▲ 2.6
仕入単価	▲ 23.7	▲ 29.5	▲ 27.0	▲ 31.5	▲ 39.4	▲ 34.4	▲ 20.0	▲ 34.9	▲ 25.6	▲ 29.6	▲ 27.9	▲ 35.8	▲ 47.4
従業員	20.4	17.9	16.9	16.3	21.3	20.0	26.7	30.2	24.4	28.4	26.6	33.3	34.6

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上DIは3.5ポイントプラス幅が減少し、業況DIはプラスからマイナス2.6ポイントに転じた。仕入単価DIは11.6ポイントマイナス幅が増加したが、採算DIは0.9ポイントマイナス幅が減少してほぼ横ばい。従業員DIは1.3ポイントプラス幅が増加した。

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
12月	▲ 11.1	▲ 27.2	▲ 22.2	23.5	▲ 11.1
1月	3.9	▲ 5.1	▲ 46.2	33.3	▲ 3.9

先行きは、売上DIはマイナスからプラス3.9ポイントに転じ、採算DIは22.1ポイント、業況DIは7.2ポイントそれぞれマイナス幅が減少した。仕入単価DIは24.0ポイントマイナス幅が増加し、従業員DIは9.8ポイントプラス幅が増加した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	塗装工事	昨年末で大型民間工事が終了し、今月から仕事量が少ない。
	総合建設	首都圏および他大都市圏は順調に推移しているが、県内は公共工事が少なく厳しい状況である。
製造業	食品	天候不順などにより、天産品が不作のため、原料価格が上昇している。
	鉄工	材料（特に非鉄金属）の価格が徐々に高騰している。
卸売業	建材	冬季の不需要期に突入して、売上は確実に落ちる季節である。
	身の回り品	雪のために展示会の売上が減少している。
小売業	家具	当業界では、売上・採算とも、景況感は下降の状態である。
サービス業	ビルメンテナンス	人手があれば新たな注文も取れるが、現状では困難である。
	タクシー	売上は11月、12月と堅調に伸びてきたが、1月に入り降雪もあって、伸びが鈍い。
	ホテル	毎年、冬季は宿泊稼働、宴会受注数、婚礼受注数が減少する。さらに、今年も昨年から引き続き原材料のUPがコストを圧迫し、且つ人材確保も難しい。